

製品・サービス動向-国内

■日立ハイテクソリューションズ:Vyopta の
ビデオコラボレーション解析・レポート
サービス取り扱い開始

株式会社日立ハイテクソリューションズ (<http://www.hitachi-hightech.com/hsl/>) (東京都中央区) は、Vyopta Incorporated (米国テキサス州) と国内販売について代理店契約を締結し、Vyopta が提供するビデオコラボレーション解析・レポートサービス「Vyopta vAnalytics (バイオプタ ヴィアナリティクス) サービス」の販売を開始する。



Vyopta vAnalytics サービスの特長

(日立ハイテクソリューションズ)

Vyopta vAnalytics サービスは、シスコシステムズ、Aciano (現: Cisco Meeting Server)、Pexip、Vidyo、ポリコムなどさまざまなビデオ会議メーカーのインフラ装置を一元的に管理することで、ビデオ会議システムの稼働状況やユーザの利用状況をリアルタイムにモニタリングすることが可能。加えて、過去にさかのぼった問題の原因究明ができるツールも備えている。これにより、社内に設置されたビデオ会議システムのパフォーマンスを引き出すためのリソース配置や増設計画を適切に行うことができるとしている。

ビデオ会議システムの企業への浸透に伴い、マルチ

ベンダーインフラ装置の稼働状況のモニタリング、キャパシティプランニング、問題の原因究明など管理者のかかえる問題は多様化している。

日立ハイテクソリューションズは、シスコシステムズや Aciano (現: Cisco Meeting Server) など多数のビデオ会議メーカーの製品を長年取り扱っており豊富な導入実績をもつ。今回、Vyopta のサービスをラインアップに追加、ビデオ会議システムのアナリティクス領域のソリューションの充実を図ることで、ユーザの管理者ニーズに応えたい考え。

■ソフトバンク：法人向けクラウド型ビデオ
会議サービス「PrimeMeeting」の提供開始、
基盤にはポリコムの「Polycom
RealPresence Clariti」を採用

(ソフトバンク：12月12日)

(ポリコムジャパン:12月12日)

ソフトバンク株式会社 (<http://www.softbank.jp/>) (東京都港区) は、クラウド型ビデオ会議サービス「PrimeMeeting (プライムミーティング)」の申込受付を12月12日から開始。サービス開始は2017年1月を予定。

PrimeMeeting は、ビデオ会議および Web 会議の機能を統合し、ビデオ会議専用端末、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、状況に応じて最適な端末を用いスムーズにコミュニケーションできる環境を提供するサービス。

マルチデバイス対応で、事前予約なく社内外問わず自由に会議に参加できる。24 時間 365 日、日本語と

英語のヘルプデスクを提供しておりシステム担当者の運用負荷を軽減するとしている。

また、PrimeMeeting は、マイクロソフト社が提供する「Skype for Business Online」との相互接続により、それぞれの利用者間をシームレスに接続することが可能。Skype for Business Online の ID を所有していれば PrimeMeeting の会議に簡単に参加できるようになっている。

その他、VPN サービス接続を希望の場合は、ソフトバンクが提供する VPN サービス「SmartVPN」、「IP-VPN」の契約が別途必要となっている。

初期費用：5,000円

プラン	内容	月額費用
ルーム5	1ルーム：最大5同時接続 インターネット経由 HDビデオ（720p）、資料共有	1万1,800円
ルーム10	1ルーム：最大10同時接続 インターネット経由 HDビデオ（720p）、資料共有、録画	2万9,800円
ルーム25	1ルーム：最大25同時接続 インターネット経由 HDビデオ（720p）、資料共有、録画	4万9,800円
ルームルーム25VPN	1ルーム：最大25同時接続 インターネットおよびVPN経由 [※] HDビデオ（720p）、資料共有、録画	12万5,000円

PrimeMeeting 利用料金（ソフトバンク）

なお、この新サービスは、ポリコムのコラボレーション・インフラストラクチャソフトウェア「Polycom RealPresence Clariti」および、ソフトバンクが提供する IaaS ベースの「ホワイトクラウド ASPIRE」をサービス基盤として採用しており、社内外を問わずプロジェクトやサービス開発などの新しいコラボレーションに活用できるとしている。

ポリコム ジャパン 株式会社 (<http://www.polycom.co.jp/>)（東京都新宿区）によると、日本で初めてポリコム基盤を利用したクラウドサービスとなるという。また、ソフトバンクによると、これまで料金や場所、端末の問題でビデオ会議サービスを利用できなかった顧客にも導入しやすいサービスとなっているという。

ビジネス動向-国内

■ベネッセグループ TMJ：WebRTC 技術を活用したリアルタイムコミュニケーションツール「Be-Talk」を独自開発、自社コールセンターに導入

（12月1日）

株式会社 TMJ (<http://www.tmj.jp/>)（東京都新宿区）は、テキストメッセージ、ビデオ会議、画面・音声リアルタイム共有できるコミュニケーションツール「Be-Talk」を独自開発し、自社コールセンター内でトライアル利用を開始した。

TMJ は、ベネッセグループに属し、コールセンター・バックオフィス（事務処理センター）の構築・運営を手掛ける。

全国に拠点を展開している TMJ ではワークスタイルの多様化の中、これまで拠点間でのコミュニケーションを中心に、市販のアプリインストール型コミュニケーションを活用してきたが、セキュリティの問題、外部就労先での TMJ ネットワーク利用不可などの業務上の環境制限のため、導入・利用が難しいケースが多々あった。

そこで TMJ では、WebRTC 技術を活用したリアルタイムコミュニケーションツール「Be-Talk」を開発。自社コールセンターで利用を開始した。開発を担当したのは、昨年フィリピン・マニラに開設した TMJP BPO Services 社。システム・ツール開発を内製化することで、ニーズに迅速に対応する開発環境を実現している。内製化によりコストフリーの環境を整備。また、利用シーンに応じた柔軟なコミュニケーションが可能になり就労場所の制約から解放されるなどのメリットがあるとしている。

Be-Talk は、テキストメッセージ、ビデオ会議、画面共有、音声通話の4つのコミュニケーション手段を提供している。

Be-Talk 提供においては、専用サーバ利用によるセキュアなクラウド環境を構築。アプリのインストールが不要で、ブラウザベースで業務環境に制限のない利用が可能となっている。従業員番号でログイン(セキュリティを担保)し、私用会話の抑止が可能なグループ/権限設定などの機能がある。

Be-Talk のトライアル利用で得られた知見はサービス開発に反映し、クライアントニーズが高まる WebRTC 技術の活用展開していく予定という。

■日立電線ネットワークス:12月1日よりエイチ・シー・ネットワークス株式会社へ社名変更

(12月1日)

日立電線ネットワークス株式会社 (<http://www.hcnet.co.jp/>) (東京都台東区)は、独立系の投資ファンド運営会社である日本みらいキャピタル株式会社の支援のもと、2016年12月1日に日立グループから独立し、「エイチ・シー・ネットワークス株式会社(HCNET)」に社名を変更した。



エイチ・シー・ネットワークス ロゴ
(エイチ・シー・ネットワークス)

エイチ・シー・ネットワークスは、設立が1981年7月21日(昭和56年)、資本金は3億2千万円。株主は APRESIA Systems 株式会社 100%保有となる。代表取締役社長には大江 慎一氏が就任。

同社は、ネットワークインテグレーション会社。主な事業内容は、情報ネットワークシステムの設計、構築、保守・監視サービスのほか、ビデオ会議システムの設計・構築・保守、情報機器関連製品の販売・保守・監視サービス、ネットワーク関連アプライアンスの開

発・販売などとなっている。

30年以上のシステム構築実績を生かし、「ネットワーク」「セキュリティ」「ビジュアルコミュニケーション」「トータルマネージメントサービス」のフィールドにおいて、顧客ファースト視点で、官公庁をはじめ大学・企業・病院向けに提案から構築・保守までワンストップでトータルネットワークソリューションを提供する。

イベントレポート-国内

■東通産業：ソニー、パナソニック、シスコの3社ビデオ会議メーカーが一堂に会した東通プライベートショウ2016「ユニファイドコミュニケーション」開催

(取材：11月30日)



東通産業株式会社 (<https://www.totsu.jp/>) (東京都港区)は、11月30日本社ビルにて、東通プライベートショウ2016「ユニファイドコミュニケーション」を開催。テレビ会議システムをテーマとしたイベントで、ソニービジネスソリューション株式会社(東京都港区)、パナソニックシステムネットワークス株式会社(東京都中央区)、シスコシステムズ合同会社(東京都港区)の各社の展示およびプレゼンテーションが行われた。

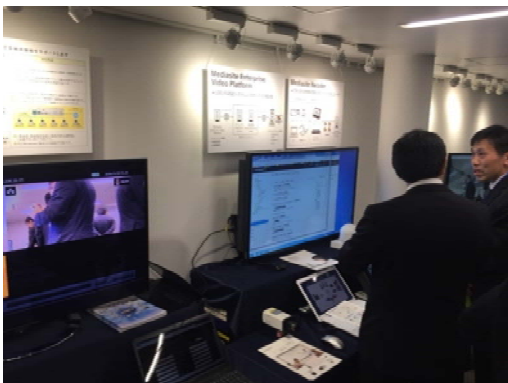
本イベントでは、多様化するコミュニケーション手段に対応すべくビデオ会議装置のみでなく、スマート

フォンやタブレットによるビデオ会議など新しいソリューションを紹介。

ソニーからは、28年に渡る、同社のビデオ会議製品提供の積み重ねを背景とした、“こだわりの高画質”、“臨場感あふれる音声”、“誰でも簡単につながる”、“国内メーカーならではの安心サポート”といった特長を紹介。

「View-DR などカメラ技術を通じた高画質への追及はソニーの最大の強み。その技術は、多地点の子機として最適な、カメラ一体型モデル「PCS-XC1」にも搭載されている。」（ソニービジネスソリューション）

また、ビデオ会議もひとつの映像ソースとして録画編集配信ができる「MediaSite Enterprise Video Platform」や、さまざまな種類のコンテンツを見やすいレイアウトで一覧表示したり画面を見ながら簡単に操作することが可能なプレゼンテーションシステム「ビジョンプレゼンター」も展示した。



パナソニック システムネットワークスは、先月 11 月に発売した、内蔵 MCU により本体のみで最大 24 地点接続が可能なビデオ会議システムの新品「KX-VC2000J」などを紹介。HD コムは、高画質や高音質、簡単操作のほか、フル HD・内蔵 MCU・モバイル（TOUGH PAD など）に標準で対応しており、追加購入ができるだけないような設計思想になっている。

パナソニックによると、日本の多地点ビデオ会議の 98% は 30 拠点以下の会議という。「KX-VC2000J」だけでほとんどのビデオ会議をカバーできるといえる。

簡単に多地点会議もできる HD コム、30 拠点以下のビデオ会議にベストマッチな製品と自負している。」（パナソニック システムネットワークス）



シスコシステムズのビデオ会議システムは、“かんたんに” “クラウドにつながる” “相互接続性” を目指している。同社では、クラウドベースのコラボレーションサービス「Cisco Spark」や、国内大学などで活用例（遠隔講義）がある「Cisco Presenter Track」（話者自動追尾機能）などを紹介。

Cisco Spark はファイル・メモ管理、タスク管理、チャットなどさまざまな便利な機能があるが今回はシスコのビデオ会議端末「SX10」を組み合わせ同社オフィスとの接続デモでそのシスコビデオ会議の簡単さを披露。

「ワークスタイル変革が最近注目を浴びている。簡単、クラウド、相互接続が実現されて初めて、場所や働き方、学び方の選択肢が広がるのではないだろうか。シスコはそれを支援していくソリューションを提供していく。」（シスコシステムズ）

東通産業として 3 メーカーが一堂に会した展示・セミナー開催は初めて。「ビデオ会議に熱心な多数のお客様にご来場いただき会場では活発な質問や意見交換があった。」（東通産業）

同社では、AV システムベンダーとしてさまざまな顧客企業に設備を導入した実績がこれまでである。ただ、最近はメーカーにとらわれず、機能とコストを踏まえた上でのベストチョイスの提案を求められるように

なったという。

その傾向はビデオ会議に関しても同じで、特にリニューアル提案の時などは、それまでユーザが使っていたメーカーや機種に関係なくゼロベースで構築するといった事例が増えてきているようだ。

「お客様のニーズの多様化によって、販売会社として今まで以上に多くのメーカーの商品やソリューションを把握する必要が出てきている。当社としても視野を広げお客様へ最善の提案ができるよう努力していく。」（東通産業）

※写真：東通産業提供。

Report

※CNAレポート・ジャパン橋本啓介による検証・取材レポート

■バイキューブ：会議室設置型テレビ会議システム「V-CUBE Box」の設置・操作の「簡単さ」を検証する

<https://blog.vcube.com/evaluate-v-cube-box-by-cna-report-japan.html>

■バイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（前編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-1>

■バイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（後編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-2>

■パイオニア VC：“ものづくり”の現場を支える、遠隔コラボレーションシステム「xSync Prime Collaboration」取材レポート

<https://blog.vcube.com/xsync-prime-collaboration.html>

PR

（広告掲載順）

■ヤマハ株式会社

（USB スピーカーフォン FLX UC 500）

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■株式会社メディアプラス

（ビデオプラットフォーム Pexip Infinity、VMR 運用ツール VMR オペレータ）

<http://www.mediaplus.co.jp/products/Pexip/>

■株式会社バイキューブ

（テレビ会議システム V-CUBE Box）

<https://jp.vcube.com/service/box/>

セミナー・展示会情報

<国内>

■失敗しない「Web 会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー ～ビジュアルコミュニケーションツールの選び方をデモを交えてご紹介～

日時：12月、2017年1月・2月

会場：東京都・大阪府・愛知県・静岡県

主催：株式会社バイキューブ

詳細・申込：

<https://jp.vcube.com/event/seminar/201606151900.html>

※その他セミナー情報：<https://jp.vcube.com/event/seminar/>

V-CUBE Box や働き方をテーマとしたセミナーもあり。

■【WEB セミナー】「Adobe Connect で実現するオンラインウェブセミナー」の御案内

日時：12月16日（金）1回開催（30分）18:00～18:30

会場：自席のパソコン（ブラウザ）

主催：株式会社サムライズ

詳細・申込：http://www.samuraiz.co.jp/event/05_161216.html

■ユーザの悩みをこれで解決！テレビ会議・Web 会議事例紹介セミナーのご案内

日時：2017年1月11日（水）、12日（木）、13日（金）
 会場：VTV ジャパン 東京本社・大阪オフィス
 主催：VTV ジャパン株式会社
 詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/1701vtv/>

■ワークスタイル変革を推進する IT 活用法

日時：2017年1月13日（金）
 14:00～17:00(受付：13:30～15:30)
 会場:晴海トリトンスクエア オフィスタワーX
 主催：株式会社日立ハイテクソリューションズ
 スマートコミュニケーション営業部
 詳細・申込：
http://www.hitachi-hightech.com/hsl/about/news/2016/workstyle_seminar_20170113.html
 ※テレワークマネジメント、住友商事マシネックス、シスコシステムズ、日立ハイテクソリューションズ各社講演。

■ポリコム オンディマンド Webinar ポリコムのマイクロソフト連携紹介

第一回 Webinar(所要時間：31分)
 「これまで以上のビジネスをポリコムでシンプルに実現」
 第二回 Webinar(所要時間：41分)
 「ポリコムとマイクロソフト SfB ソリューションのネイティブ連携 - 利点と実現方法」
 第三回 Webinar(所要時間：34分)
 「Office 365 環境におけるポリコムとマイクロソフト SfB ソリューションのネイティブ連携」
 会場：オンラインで視聴
 詳細・申込：
<http://www.polycom.co.jp/forms/microsoft/skype-for-business-webinar.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々配信・共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dtc-forum）

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2016年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

編集後記

今年の発行はこちらで終わりです。今年も皆様のご支援によりCNAレポート・ジャパンとして1年無事に活動させていただきました。深く御礼申し上げます。微力ではございますが、来年もお役に立てるよう一層尽力いたしますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。来年は1月15日号からスタートです。良いお年をお迎えください。

CNAレポート・ジャパン 2016年12月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp